

# 鹿折小で環境学習視察

## 国連大学「森は海の恋人」も見学 研究室

気仙沼

国連大学の「持続可能な開発のための教育」(ESD)の地域拠点(RCE)視察のために、気仙沼市を訪れていた同大学の首席研究員らが十八日、鹿折小学校(菊地敏郎校長)で授業を参観し、食の学習から発展させた環境教育の現場を視察した。

訪問したのは、同大学高等研究所の名執芳博士、席研究員、ダイビッド・

りや磯遊びに夢中になった園児たち。ヤドカリやカニ、小魚などを捕まえて母親や友達に見せては、歓声を上げて喜んでいた。

千葉柚奈ちゃん(五つ)は「お母さんと一緒に楽しい」と笑顔。保護者からは「食卓に出せるくらい採れるといいですね」との声が聞かれた。



授業を参観する研究員ら

R・ムテカンガ博士(ウガンダ出身)、シナラ・サディコバ博士(キルギス出身)、秋元波研究支援補佐員の四人。四年一組で行われた阿部正人教諭による総合的な学習「フカヒレの秘密を探ろう」の授業を参観した。

授業は、マグロはえなわ漁とサメの漁獲を題材に、資源保護を考える内容。児童は、自分たちがまとめた手作り新聞を示しながら「獲りすぎによって、マグロがいなくなってしまう可能性があります」「フカヒレの原

料はマグロ漁のときに獲れるサメです」などと発表し、阿部教諭は、サメを余すところなく製品化していることなどを説明した。

ダイビッド博士は「学習の視点を水産業から環境保護に発展させている点が素晴らしい」、シナラ博士は「手づくり新聞を教材に用いるのが画期的」などと評価していた。

一行は、同校の参観に先立って市内唐桑町の水山養殖場を見学。畠山重篤さんから森、川、海をつなぐ環境保護の取り組みについて聞いた。午後にはラムサール条約湿地の伊豆沼を見学したあと、仙台広域圏RCE運営委員会との会議に出席した。